

研究・調査報告書

報告書番号	担当
126	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Effects of high-profile collisions on drink-driving penalties and alcohol-related crashes in Japan. 日本における知名度の高い衝突事故と飲酒運転の罰則がアルコール関連衝突事故に及ぼす影響	
執筆者	
Nakahara S, Ichikawa M.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Inj Prev. 2011 Jun;17(3):182-8.	
キーワード	
衝突事故、飲酒運転、刑罰、飲酒事故	
要旨	
背景： 日本の道路交通法が2002年と2007年に改正された。これは、それぞれ1999年と2006年に発生した知名度の高いアルコール関連自動車事故後のメディア報道、公共キャンペーン、および議論の結果として、飲酒運転の罰則を高めることを目的としたものであった。	
目的： 知名度の高い自動車事故発生後の社会規範やドライバーの行動の変化により、道路交通法の改正前に飲酒運転関連事故が減少し始めた、という仮説を検証する。	
方法： 1999年と2006年の事故の影響を評価するために、時系列分析が用いられた。1995年1月から2008年12月までの毎月の警察公表データを用い、飲酒運転を伴う自動車事故の割合、および事故の程度や変化の勾配に、知名度の高い事故発生と関連する急激な変化があったかどうかを検討した。	
結果： 1999年、ドライバーの血中アルコール濃度 (BAC) が0.5 mg / ml以上のアルコール関連死亡事故の割合は、月あたり-0.09%ポイント (95%CI -0.15~-0.03) の勾配で減少し始めた。事故の程度に変化はなかった。BAC 0.5未満のドライバーでは変化は認められなかった。2006年には、BAC0.5以上・未満のドライバーのいずれにおいても、事故の程度は有意に-3.1 (-5.0~-1.2) および-1.7 (-2.5~-0.9) %ポイント減少した。勾配に変化は認められなかった。	
結論： 飲酒運転厳罰化の以前に、知名度の高い自動車事故についてのメディア報道、およびその後の公共キャンペーンや議論によって社会規範やドライバーの行動が変容し、アルコール関連自動車事故割合の低下につながった可能性が示唆された。	